

大河効果の継続性を

経済フォーラム 事例発表やIT提言も

大河ドラマ「花燃ゆ」の盛り上がりを継続的なものに―と、「秋燃ゆフォーラム」が12日、江向の「あづらんど萩」大ホールで行われる。

平成25年から萩地域の観光情報を発信するスマートフォンアプリ「ふらつと案内」を運営している「ITコーディネーターやまぐち協同組合」（三宅功一郎理事長）と「経営情報学会」中小企業のIT経営研究部会が主催する。

介する。ITコーディネーター協会会長の播磨崇氏が「イノベーションを起こす企業はここが違う」をテーマに講演。経営情報学会所属で明治大学経営学部教授の岡田浩一氏は「攻めのIT経営中小企業百選に見る」について語る。

2部では、萩市内でのIT関連企業や学校の動向を紹介。江崎の「データロジック」や明木でテレワーク実験を行った「ダンクソフト」、樺東のサテライトオフィスを設置した「ネットケアサービス」

全5部構成。1部では「日本の中小企業のIT利活用動向」を紹介

などの担当者が登壇する。萩商工の生徒もIT活用の授業などについて発表する。

3・4部では、「三見シーマザーズ」「萩の夏みかんクリエイト」「澄川酒造場」「萩ガラス工房」「美萩工芸」「萩青年会議所」などが活動を報告。5部では、ITコーディネーターやまぐち協同組合が「地域活性化にITを活用する提言」を

フォーラムは全国から同組合や学会の関係者らも参加。11日、13日には先進企業の見学会も行われる。

一般の参加も呼びかけている。問い合わせは同組合の前田信太郎さん（090・50338・6099）まで。